

国道2号等 神戸三宮駅前空間整備事業計画検討会
(第1回) 議事概要

1. 日 時 2019年10月28日(月) 10:30~12:10

2. 場 所 神戸市役所1号館14階 大会議室

3. 出席者

[座 長] 小谷 通泰 (神戸大学 名誉教授)

[委 員] 正司 健一 (神戸大学大学院 経営学研究科 教授)

羽藤 英二 (東京大学大学院 工学系研究科 教授)

松島 格也 (京都大学大学院 工学研究科 准教授)

(敬称略)

近畿地方整備局、兵庫県、神戸市、雲井通5丁目再開発(株)、兵庫県バス協会、
兵庫県警、事務局(兵庫国道事務所・道路計画第二課・神戸市)

4. 議 事

(1) 挨拶

神戸大学 名誉教授 小谷 通泰

(2) 審議

- ・ 設立趣意書(案)、規約(案)を了承する。
- ・ 「検討会について」、「神戸三宮駅前空間における施設計画の検討」、「整備効果の考え方」、「今後の流れ」について、事務局より説明され、8月の中間とりまとめを踏まえ、事業計画のとりまとめに向けて審議していくことを確認。

<委員からの主な意見>

2) 検討会について

3) 神戸三宮駅前空間における施設計画の検討

3-1) 集約型公共交通ターミナル

- ・ バスの出入口が2箇所と限定的であるため、非常時に使えるよう建物西側にも出入口を設置することが望ましい。
- ・ 路線バスや中・長距離バス扱いとしないバスをどのように三宮クロススクエア内で捌くか検討すべき。
- ・ バスの集約パターンに応じた待合空間の配置と付帯施設について検討すべき。
- ・ 将来的なMaaSへの対応可能性も考慮しておく必要がある。
- ・ バスターミナルと再開発ビルが一体的に整備されるため、統一されたコンセプト・デザインが重要。

- ・連節バスなどの路面交通とバスタをどのように繋ぐのかは、設計にも関わることであるからよく検討すべき。

3-2) 人の賑わいと回遊性を創出するデッキ

- ・バスタとデッキ、デッキとまちとの接続をしっかりと行うべきであり、そのためのデザインが重要である。
- ・デッキの賑わいについて、休憩できるスペースなどデッキに人が集まる仕掛けを十分検討すべき。
- ・デッキの整備において、バリアフリー化することは重要な観点である。

3-3) 防災都市・神戸の駅前防災拠点

- ・防災機能を検討する上で、災害時の状況を想定し、計画した防災機能が発揮されるよう検討すべき。

3-4) 魅力的な駅前空間を創出する三宮クロススクエア

- ・エリアマネジメントにおいて、バスターミナルは分けて考えるのか、緩やかな連携を取るのか、一体で行うのかなど、エリアマネジメントでの位置づけを明確にし、その中で様々なことについて検討すべき。
- ・バスターミナルと新たなモビリティとの接続のあり方等について、考え方を整理する必要がある。

3-5) 回遊性を向上させるモビリティネットワーク

- ・現状の人の流動を把握し、整備するデッキやクロススクエアによる回遊の変化を踏まえた検討を行うべき。
- ・回遊性については、対象とするエリア（えきまち空間内、都心全体の周遊）によって、目的や方向性が異なることを踏まえておく必要がある。

4) 整備効果の考え方

- ・基本的な算出項目は押さえているが、バスタに来た人がどう動いてどのように回遊するかという回遊性の向上に関する効果把握に取り組むことを検討すべき。
- ・施設整備に伴う効果は幅広く存在することを前提に、今回の検討対象項目は定量化ができる限定的なものとなっているという整理をすべき。
- ・整備効果は単純に加算できず、重複するものもあるため示し方には注意が必要。

5) 今後の流れ

- ・今後の流れについて了承。

以上